

世界から日本に関心に向けた人物の群像



ジャパNSTAディ



「日本研究」人物事典

日外アソシエーツ 編

A5・630頁 定価(本体17,143円+税) ISBN978-4-8169-2095-0 2008年3月刊行

国際関係論、比較文化論に

関わる方におすすめします!

■16世紀の来日宣教師から現代のエコノミストまで、日本に関心を持ち、著述活動を行った外国人を収録した人物事典です。作家、哲学者、政治家、建築家、ジャーナリストなど1,700人を収録。

■シーボルト、タウト、サイデンステッカーなど、世界各国、さまざまな分野・視点から日本に関心を寄せた人物の詳細なプロフィール、日本との関わりや日本研究の著作などがわかります。

■「国別索引」「分野別索引」付き。

好評既刊 外国人著者による日本研究の邦文図書5,360点

「日本研究」図書目録1985-2004 —世界の中の日本

A5・690頁 定価(本体28,000円+税) ISBN978-4-8169-1922-0 2005.5刊

【収録人物例】

- ルイス・フロイス(1532~1597) ポルトガルの宣教師 著書「日本史」
 - フィリップ・シーボルト(1796~1866) ドイツの医師 著書「日本(全6巻)」
 - ラフカディオ・ハーン(小泉八雲 1850~1904) アイルランド出身の作家 著書「知られざる日本の面影」他
 - アーネスト・フェノロサ(1853~1908) アメリカの哲学者。論文「日本美術の進路」他
 - ニコライ(1836~1912) ロシアの来日宣教師 著書「ニコライの見た幕末日本」他
 - エドワード・シルベスター・モース(1838~1925) アメリカの動物学者、大森貝塚の発見者
 - ヴェンセスラウ・デ・モラエス(1854~1929) ポルトガルの外交官 著書「日本精神」他
 - ブルーノ・タウト(1880~1938) ドイツの建築家 著書「日本文化私観」他
 - ルース・ベネディクト(1887~1948) アメリカの文化人類学者 著書「菊と刀」
 - 周 作人(しゅうさくじん 1885~1967) 中国の作家 著書「日本談義集」
 - バーナード・リーチ(1887~1979) イギリスの陶芸家 著書「乾山—四大装飾芸術家の伝統」
 - ロラン・バルト(1915~1980) フランスの記号学者 著書「表徴の帝国」
 - 金 東祚(キム・ドンジョ 1918~2004) 韓国の外交官 著書「韓日の和解」
 - ドナルド・キーン(1922~) アメリカの日本文学者、コロンビア大学名誉教授 著書「日本文学の歴史」他
 - リチャード・レーン(1926~) 学芸員、葛飾北斎の研究者
 - 李 御寧(イ・オンリョン 1934~) 韓国の文芸評論家、初代文化相 著書「『縮み』志向の日本人」
 - ジェラルド・カーティス(1940~) アメリカの政治学者 著書「代議士の誕生」他
 - ロバート・ホワイティング(1942~) スポーツ・ジャーナリスト 著書「菊とバット」
 - コンスタンチン・プレオブラジェンスキー(1953~) ロシアのジャーナリスト、元KGB諜報員 著書「日本を愛したスパイ」
- …など1,700人

2017.12

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	ジャパNSTAディ「日本研究」人物事典 定価(本体17,143円+税) ISBN978-4-8169-2095-0	冊
		■お名前	冊
		 9784816920950	

氏名
原綴り
職業・肩書

日本との関わりも
記述した
プロフィール

日本研究の
著作

ヴァリエー,ラーシュ

Vargö,Lars
外交官,日本文学研究家・スウェーデン国会
国際局長

[生年月日]1947年
[国籍]スウェーデン
[出生地]ストックホルム
[学歴]ウプサラ大学卒, スtockホルム大学東洋
学部(1971年)卒

[学位]博士号(ストックホルム大学)〔1982年〕
[経歴]1972~73年大阪外国語大学、'73~76年
京都大学国史科に留学、日本文学を学び
「日本古代国家形成の研究」で博士号を取
得。'78年スウェーデン外務省に入り、在日ス
ウェーデン大使館に勤務。'83~84年在リビア大
使館、'84~87年在日大使館、'87~90年在
米大使館などに赴任し、'93~98年駐日公
使。その後、駐リビア公使、外務省東ア
ジア部長などを経て、国会国際局長。俳句、詩
の研究にも従事し、公使在任中の'93年在日
大使館内に事務局を置く日本スウェーデン文
学協会が発足、'95年文学誌「ひかり」を創刊
し、日本文学を紹介。スウェーデン語訳に日本
詩集「井戸の中の月」がある他、著書に「装わ
れた静けさの日本」('92年)、共著に「日本の
世界的役割」('94年)、「スウェーデンから見た
日本の素顔」、編著に「種田山頭火句集」な
どがある

[受賞]スウェーデン王立アカデミー文学賞〔1998
年〕

[文献]
◇スウェーデンから見た日本の素顔 ラーシュ・
ヴァリエー著, 児玉千晶訳 メイナード出版
1998.3
◇種田山頭火句集 (芸林21世紀文庫)
種田山頭火著, Lars Vargö編 芸林書
房 2002.12

ウィッシュワナタン,サウイトリ

Vishwanathan,Savitri
日本研究家・デリー大学教授

[生年月日]1934年
[国籍]インド
[出生地]ニューデリー

[学歴]デリー大学大学院(政治学)〔1960年〕修
士課程修了
[学位]博士号(ジャハラール・ネルー大学)〔1970
年〕

[専門]日本の政治・外交政策
[経歴]1966年から2年半東京外国語大学に留
学、日本語を学ぶ。'69年デリー大学中国・日本
研究学部講師となり、'77年助教授を経て、
'85年から教授。'82年日本語教育および日本
研究の振興、文化交流の推進に寄与したと
の理由で日本政府から勲四等瑞宝章を受
章。知日家。著書に「Normalisation of
Japanese-Soviet Relations:1945-1970」
('75年)、「日本」('76年)など。'91年6月~'92
年5月国際日本文化研究センター客員教授と
して日本に滞在

[文献]
◇インドは日本から遠い国か?—第二次大戦後
の国際情勢と日本のインド観の変遷 サウイ
トリ・ウィッシュワナタン述, 国際日本文化研究
センター編 国際日本文化研究センター
1993.6

ウェーリー,アーサー

Waley,Arthur David
東洋学者, 翻訳家・「源氏物語」の英訳者

[生年月日]1889年8月19日
[没年月日]1966年6月27日
[国籍]英国
[出生地]タンブリッジ・ウェルズ
[学歴]ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ古典学
科〔1910年〕中退
[資格]日本学士院客員〔1965年〕

[経歴]裕福なユダヤ系の家に生れる。貿易商の
おじの下で働いた後、1913年から大英博物
館に勤務。東洋部門で収集された中国や日
本の絵画の整理・目録作成の仕事を担当、の
ち1930年まで版画絵画部門副部長。必要に
せまられて日本語、中国語を独学で修得、'16
年頃から白楽天、李白などの唐詩・宋詩を翻
訳。外国人として初めて「源氏物語」を英訳
し「The Tale of Genji」全6巻として刊行
('25~33年)し、「源氏物語」が世界的に知ら
れるようになった。このほか「枕草子」の翻訳
('28年)等によって日本の古典文学を世界に

ウォルフレ

中国関係の著述を
数多く育てたが、自身
されたことがなかった
「西遊記」、和歌・能
詩と生涯」などがある

[受賞]日本政府功労賞
[文献]

◇日本の詩歌—うた
ウェーリー著, 川村
1989.4
◇ウェーリーと読む枕草
島知明著 鼎書房

ウォルフレン,カ

Wolferen,Karel (C)
ジャーナリスト, 評論
教授

[生年月日]1941年
[国籍]オランダ
[出生地]ロッテルダム
[専門]政治経済比較論
[経歴]18歳の時からア

来日し、英語教師の
89年オランダの「NR
ルスプラット」紙極東
外国特派員協会(外
務めた。'87年フィリ
ピンのジャーナリズム
賞。その後米誌「フォ
載論文「ジャパン・ブ
呼び、対日政策の見
ニスト」として台頭。'8
謎」を刊行、在日30年のジャーナリストの目から
見た日本社会論として大きな話題を呼び、10
ヶ国語に翻訳された。また、「人間を幸福にし
ない日本というシステム」もベストセラーとなる。
他に「日本の知識人へ」「支配者を支配せよ
選挙/選挙後」などがある

[文献]

◇日本問題(ジャパン・プロブレム)—「フォーリ
ン・アフェアーズ」掲載の問題論文 K.G.V.
ウォルフレン著, 西岡公訳:諸君 19(4)
1987.4
◇なぜ日本の知識人はひたすら権力に追従
するのか K.G.V.ウォルフレン 西岡公訳:

同 早川書房 1991.9
◇What'sジャパン?—日本「再統一」の脅威
NPQ(New Perspective Quarterly) 編著
, 関元,吉岡晶子訳 JICC出版局
1991.3
◇日本をどうする!?—あきらめる前に、144の疑
問 K.V.ウォルフレン著, 篠原勝訳 早川
書房 1991.9
◇日本人よ、夢想的、共同体的現実観を改め
よ K.V.ウォルフレン 篠原勝訳:エコノミ
スト 70(10) 1992.3.10
◇ニッポン市民への手紙(「ニッポン人への手